

定例自然観察会実施報告書

2025年3月22日

実施日 2025年3月9日(日) 天候 晴れ
テーマ 春の兆しを探してみませんか
コース 神戸市立森林植物園 園路を歩く
集合 10時15分 森林植物園 展示館前
解散 14時30分 森林植物園 長谷池広場
参加者 ビジター 36名 会員 39名(内5班24名)

神戸市立森林植物園は昭和15年に開園以来、神戸市民に愛されてきた植物園で六甲山の山並みと自然を背景に針葉樹に四季を彩る落葉樹、花木を添えられた樹木園です。

観察コースは植物園の園路を多目的広場から香りの丘を巡って一旦、展示館前に帰り、昼食後、ロックガーデンを見てあじさい坂を歩き山田道からトチノキ谷へそしてゴールは長谷池の広場です。このコースを参加した36名のビジターの方と共に春の兆しを探して見ました。



展示館前にあるシンボルツリーと言えるセコイアメスギなど針葉樹から観察が始まり、メタセコイヤ通りに出てメタセコイヤやラクウショウの比較や樹形を見ながら多目的広場へ出た。広場には植樹されたカワズザクラやジュウガツザクラの蕾は硬いまま、足元には少しだがオオイヌノフグリやホトケノザの花を見つけ春を感じることが出来た。種子の残るユリノキとヒマラヤスギには雌花を見つけた。次にチシャノキ、マメガキそしてロウヤガキには実が残っていた。遊具のある広場の反対側に根茎で群生するヨシとマテバシイや褐色の葉を落とさないコナラ、クヌギなどが続いている。



香りの丘では薄紅色のアケボノアセビは蕾のままで春を待ち詫びている。周辺にはタイサンボク、イヌシデの大木、コデマリやコブシ、多くの蒴果をつけたモクゲンジ、リキュウバイ、ヤマナラシがある。香りの丘は比較的平坦で道も整備され歩き易くまた季節毎の観察に良い場所と感じた。植物園特有のハクモクレン、ハナカイドウ、キソケイ、マルバグミにカラタネオガタマノキそれにつる性のナニワイバラと次々に出て来た。イロハモミジやキンモクセイを見て階段を降りるとこの時期、紅葉するホンコンエンシスと言われる常緑のトキワヤマボウシの高木がある。道沿いにはウチワノキ、ヒトツバハギ、ニシキギは暖かな春の日差しを受けていた。この辺りは園の北に位置するせいほとんどの木々は冬芽のままであった。



またこの丘にはモミジバフウが多く、周辺には幼木が数多く見られた。葉柄が赤くきれいなモッコクやトベラと蕾のままのジンチョウゲがある。出口付近はカジノキ、ボダイジュにニューゲンモクレンやウラジロイワガサの低木があった。これに続く道には初夏のころにアナベルなど各種アジサイが咲き乱れるところ、所々にキミノガマズミ、コバノキササゲやヒュウガミズキを見ながら昼食場所へ急いだ。

午後は先ずロックガーデンでスプリングエフェメラルと言われるバイカオウレン、セリバオウレン、セツブソウ、ユキワリイチゲとフクジュソウの花が見られて、ビジターの方にも確認してもらった。



セツブソウ

バイカオウレン

フクジュソウ



あじさい坂から西口方面へ歩き、葉の落とさないチドリノキとイヌシデやクマシデ、ハシバミやツノハシバミそしてハクウンボクにモクレンの冬芽や葉を残したエゾユズリハなどを観察して山田道へ歩いた。道沿いに早春の花を期待したウグイスカグラがあったが、未だ蕾のままであった。



山田道は林の中を歩く快適な山道で、道沿いにはクロモジが多く、日当たりの加減か葉芽、花芽が膨らみかけていた。春を彩るコバノミツバツツジやリョウブ、カラスザンショウなどを見てトチノキ谷へ降りる。サワラ、アスナロの針葉樹、低木のスノキ、高木のムクロジ、キハダ、トチノキがあり谷地を暗くしている。ミツマタの花は蕾のままだったが春の匂いがしたように思えた。長谷池沿いにはラクウショウの気根やハナノキ、ツツジ類やヤマボウシなどを見てゴールの広場へ到着した。ビジターの方には今日の観察で少しではあるが春を期待して貰えたと思いそれぞれに解散し帰路に着いた。

今回の植物園での観察はビジターの方にも馴染み易いと感じた。ただ全般を見て観察時間に窮屈さを感じたことは反省点です。またビジターの方には、植物園の新しい一面が発見出来、面白かったなどの感想をいただき概ね満足していただいたと思っている。

六甲自然案内人の会

5班 倉本敏明